

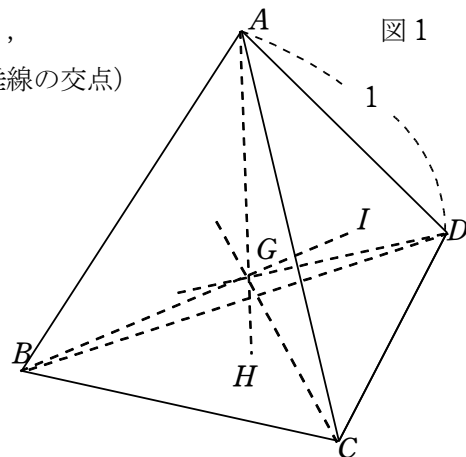
正四面体の中心角



正四面体とは、四面体の各面がすべて正三角形よりなっている立体である。
正四面体では、外心（外接球の中心），内心（内接球の中心），
重心（位置ベクトルの平均注1），垂心（頂点から対面への垂線の交点）
がすべて一致する。（これは正三角形と同じ性質である）

この点 G を「正四面体の中心」と呼ぶことにする。
そして、図1のように、頂点から対面への垂線のなす角
 $\angle AGB, \angle AGC, \angle AGD, \angle BGC, \angle CGD, \angle DGB$ は、
対称性により、すべて等しい角になる。……①

この角のことを「**正四面体の中心角**」と呼ぶことにしよう。
この角の大きさは、 109.5° に近い。



[1] 底面の重心の性質を用いる方法

図1で $\triangle BCD$ の重心を H とすると、 H は $\triangle BCD$ の外心でもあるから、 $AH \perp$ 平面 BCD ，

今、正四面体 $ABCD$ の1辺の長さを1とすると、 $BH = \frac{2}{3} \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{3}}{3}$ ，

$$AH = \sqrt{1 - \left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right)^2} = \sqrt{\frac{2}{3}} = \frac{\sqrt{6}}{3}, \quad AG = BG = x \text{ とおくと, } \left(\frac{\sqrt{6}}{3} - x\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right)^2 = x^2$$

これを解いて、 $x = \frac{\sqrt{6}}{4}$ を得る。 $GH = \frac{\sqrt{6}}{12}$ となるから、 $AG : GH = 3 : 1$ となり、正四面体の中心

は、頂点から対面への垂線を3:1に内分する点(*)となる。また、1辺の長さ1の正四面体の体積 V は、

$$V = \frac{1}{3} \times \triangle BCD \times \frac{\sqrt{6}}{3} = \frac{1}{3} \times \frac{\sqrt{3}}{4} \times \frac{\sqrt{6}}{3} = \frac{\sqrt{2}}{12} \text{ となる。これは覚えておいてよい値である。}$$

さて、本論に戻って、 $\angle BGC = \theta$ とおくと、 $\triangle BGC$ で余弦定理より、

$$\cos \theta = \frac{2 \left(\frac{\sqrt{6}}{4}\right)^2 - 1^2}{2 \times \frac{\sqrt{6}}{4} \times \frac{\sqrt{6}}{4}} = \frac{2 \times \frac{3}{8} - 1}{2 \times \frac{3}{8}} = -\frac{\frac{1}{4}}{\frac{3}{4}} = -\frac{1}{3} = -0.333\cdots = -0.3 \text{ となる。}$$

三角比の表を参照すると、 $\cos 70^\circ = 0.3420$, $\cos 71^\circ = 0.3256$ であり、 $\frac{0.3420 + 0.3256}{2} = 0.3338$

であるから、 $0.333\cdots \doteq \cos 70.5^\circ$, $\cos \theta \doteq \cos(180^\circ - 70.5^\circ) = \cos 109.5^\circ$ となり、

正四面体の中心角 θ は、 109.5° に極めて近い。見事なまでに近いと言えるだろう。

底面の正三角形 $\triangle BCD$ の中心角 $\angle BHC = 120^\circ$ より 10.5° 小さいが、 $120 \times \frac{7}{80} = 10.5$ だから、

$120 \times \frac{73}{80} = 109.5$ となる。弧度法では、 $109.5^\circ = \frac{73}{120}\pi$ となる。弧度法でも近い値が出せるのだ。

[2] 正四面体の中心の性質をダイレクトに用いる方法

[1] の途中で出てきた性質(*)を用いれば、図1で $BG : GI = 3 : 1$, $GI = GH$ だから、

$BG : GH = 3 : 1$, $\triangle BGH$ は $\angle BHG = 90^\circ$ の直角三角形だから、 $\cos \angle BGH = \frac{1}{3}$ ，

また、 $\angle AGB = 180^\circ - \angle BGH$ より、 $\cos \angle AGB = -\cos \angle BGH = -\frac{1}{3}$

そして、①より、 $\angle AGB = \theta$ ，したがって、 $\cos \theta = -\frac{1}{3}$ となる。

[3] 位置ベクトルを用いる方法

正四面体の頂点 A を位置ベクトルの原点とし、 $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$, $D(\vec{d})$ とする。

正四面体 $ABCD$ の1辺の長さを1とすれば、 $|\vec{b}| = |\vec{c}| = |\vec{d}| = 1$ ，また内積については、

$$\vec{b} \cdot \vec{c} = |\vec{b}| |\vec{c}| \cos 60^\circ = 1 \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} = \frac{1}{2}, \text{ 同様に, } \vec{c} \cdot \vec{a} = \vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{1}{2} \text{ ②}$$

A から平面 BCD に下ろした垂線の足 H は $\triangle BCD$ の重心でもあるから、 $\overline{AH} = \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{3}$ ，

ここで、線分 AH を3:1に内分する点を G とすると、 $\overline{AG} = \frac{3}{4} \times \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{3} = \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4}$ (**)

さらに、 $\triangle ACD$ の重心を I として、線分 BI を3:1に内分する点 G' の位置ベクトルは、

$$\overline{AG'} = \frac{\overline{AB} + 3\overline{AI}}{3+1} = \frac{1}{4} (\vec{b} + 3 \times \frac{\vec{c} + \vec{d}}{3}) = \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4} \text{ となり, 点 } G \text{ と点 } G' \text{ は一致する。}$$

他の面でも同じことがいえ、頂点から対面への4垂線は1点 G で交わり、それぞれを3:1に内分する。

(**) の分子に $A(\vec{0})$ を加えれば、 $\frac{\vec{0} + \vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4}$ となり、これが「位置ベクトルの平均注1」である。

ベクトルを利用して、 $\cos \angle BGC = \cos \theta$ を求めてみよう。 θ は \overline{GB} と \overline{GC} のなす角である。

$$\overline{GB} = \vec{b} - \frac{\vec{b} + \vec{c} + \vec{d}}{4} = \frac{3\vec{b} - \vec{c} - \vec{d}}{4}, \quad \overline{GC} = \frac{3\vec{c} - \vec{d} - \vec{b}}{4} \text{ と表されるから, ②を適用して,}$$

$$|\overline{GB}| = \frac{1}{4} \sqrt{9|\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2 - 6\vec{b} \cdot \vec{c} - 6\vec{b} \cdot \vec{d} + 2\vec{c} \cdot \vec{d}} = \frac{1}{4} \sqrt{9+1+1-3-3+1} = \frac{\sqrt{6}}{4} = |\overline{GC}|, \text{ また,}$$

$$\overline{GB} \cdot \overline{GC} = \frac{1}{16} (3\vec{b} - \vec{c} - \vec{d}) \cdot (3\vec{c} - \vec{d} - \vec{b}) = \frac{1}{16} (10\vec{b} \cdot \vec{c} - 2\vec{b} \cdot \vec{d} - 2\vec{c} \cdot \vec{d} - 3|\vec{b}|^2 - 3|\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2) = -\frac{1}{8}, \text{ よって,}$$

$$\cos \theta = \frac{\overline{GB} \cdot \overline{GC}}{|\overline{GB}| |\overline{GC}|} = \frac{-\frac{1}{8}}{\left(\frac{\sqrt{6}}{4}\right)^2} = -\frac{1}{3} \text{ とベクトルの力のみで, 正四面体の中心角の余弦が求められた。}$$

正四面体は、メタン CH_4 の分子構造になっていて、中心に炭素 C が、頂点に水素 H が位置し、 C と H の結合角は 109.5° である。 109.5° はマラルディの角度ともいわれて、A4やB4の用紙の対角線のなす角のうち鈍角の角度でもある。これは、A4・B4用紙の縦横比が $1:\sqrt{2}$ であるところからきている。

